

國府

郡

七日、大瀧ノ正木ガ城ヲ押取卷、晝夜攻戰、終ニ城方敗レテ、正木降參シタリケル、夫ヨリ白濱ヘ引歸リ、暫ク事靜ニナリケレバ、義實公ノ給ヒケルハ、我十九歳ニテ當國ヘ渡リ、纔五六年モ旅住セシ所ニ、不思議ノ合戰起リシヨリ、當國ヲ切隨ヒ、今ハ上總迄手ニ入タリ、可然者ノ娘ヲ娶ラバヤト仰ケル、安西承、上總國眞里谷某ガ息女、可然候トテ、追付迎取、御前ニゾ定タリ、斯テ御添合睦カリケレバ、御男子誕生マシ、ケル、大將御悅カギリナク、千歳ヲ祝ヒ、春若丸ト名付給フ、月日來リ過行程ニ、今年十五歳ニナラセ給フ、御元服ノ御祝アリケリ、義實公ノ給ヒケルハ、我足利ヲ名乗ドモ、元根ハ新田ノ三男里見也、其子足利ナレバ、我父家基末葉故、足利ヲ名乗給ヒシゾカシ、然バ先祖ノ氏里見ヲ名乗モノナシ、今日ヨリ汝元服セバ、里見ヲ名乗ベシトテ、里見刑部少輔義成トゾ名付給ヒケリ、略中 永正二年乙丑四月十五日、生命五十八歳ニテ薨給ケル、安房ノ里見ノ初祖ハ此殿ニゾ在ケル、

〔倭名類聚抄五國郡〕安房國國府在平群郡行程上

〔房總志料二安房〕府中は、地名にてはなし、安房の國府といふ事なり、順和名抄に、安房國府在平郡と、

然れども今は安房郡に并す、又府中を國中といへるも、國府なれば也、

〔房總志料續十一平群郡〕今は府中村となりてあり、村高七拾九石四斗九升五合、外に貳百七石寺領社領ありと、

〔倭名類聚抄五國郡〕安房國養老二年割上總國四郡置此國、管四略、註平群倍久利、安房如朝夷阿左、長狹奈加

〔延喜式二民部〕安房國中管平群、長狹○、安房朝夷、右爲遠國

〔伊呂波字類抄安國郡〕安房國管養老二年五月割上總國四郡爲、四郡郷册五、朝夷平栗、アサヒナ朝夷アサヒナ

安房アハ、長狹ナカサ

〔皇國郡名志〕安房國四郡